



探究的な学習研究推進通信

Fukutomi Inquiry Learning Team



令和5年
8月18日
(金)
No.24

生活科の今日的な意義と展開—探究の過程と評価の本質—

7月13日(木)に、広島大学 朝倉敦 名誉教授に来校していただき、小学校1・2学年の生活科の研究授業を実施しました。授業後に「生活科の今日的な意義と展開—探究の過程と評価の本質—」という題で講演をしていただきました。まとめてみましたので、ご覧ください。

1 本時のよさと展望

- それぞれの子どもが自己発揮できる授業展開であること
一人一人の経験からくる「思っていること」が同じだったり違ったりしている。その中で、日常生活や学校で調べたこと・聞いたことなど知っていることから学習展開している。
- 板書による意見の整理
子ども達が思ったことを自由に発言すると、バラバラになり何が何だか分からなくなる。それでは学習の積み上がりがいい。板書は教師が教材・学習材の研究をして工夫する必要がある。

2 生活科の教科特性

- 生活科が小学校1・2年生にある背景(30年前)
生活科ができるまで、社会の急激な変化(自動車の増加による危険増、習い事増加など)により、**具体的な活動や体験(あそび)が減少**した。あそびの要素は<自由・自発・楽しさ>、学習材は自分達で見つけて引っ張ってくる。あそびは本人たちがやりたいから行うので、嫌々することはない。
- 生活科の今日的な意義

デジタル・AI時代において、一層大切になってくる。

体験：私達は現実の世界に生身で生きている。これまで以上にリアルな体験が大切になる。

感覚：小さいうちに十分に使わなければ失われてしまう。

情報：いろいろな人生を豊かにするために必要である。

過程：課題解決のプロセス、はじめはあそびの中にある。

総合：生きていく上で必要な様々な力がストーリーに入っている。

- 生活科は小学校1・2年生の発達段階に合った学習

小学校1・2年生は、**思考と活動が一体となっている**。例えば・・・

子ども「りんごって、どうやって大きくなるのかな？」

先生「くだもの屋さんに聞いてみたらいいかも。」

子ども「今からくだもの屋さんに行くの？」

先生「う～ん…今からはちょっと無理かな。」

思ったらすぐに行きたい。生活科は座学ではなく、**具体的な活動や体験をしながら学習を進める**。

- 幼児期の学びと小学校を接続

幼児期の育ちや学びはあそびを中心に行われている。活動しながら学習する生活科で、幼児期の学びと小学校の学習を円滑に接続する。

- 自立を促す。→生活上(くつをそろえるなど)、学習上(発表したいけれど、他の人が当たったから



- ガマンなど)、精神的な(自分でできることはチャレンジ、困ったら助けを求めるなど)
- 教科であることの意味(総合との違い)→内容が決まっている。全部で9つある。(下記)

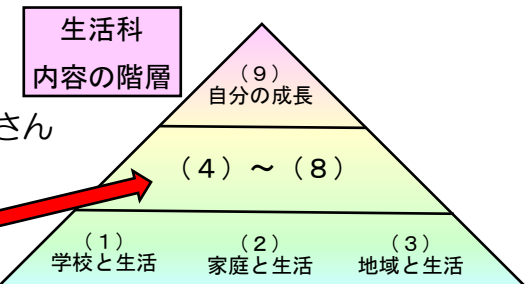
3 ~したい(主体性)

- 自分との関わりと過程の中にある思考→思いや願いをどう実現するか?主体的な活動になる。
- 自分事にならないと社会的なことを実現することができない。調べたい、やってみたい、教えたいが大切。

4 体験したことを他の人に伝えるために表現(可視化)する

- 表現に力が出てくるのは、心が動いたとき。心が動くと言いたくなる。**体験と表現はセット**。
くびっくりした、すごい、わくわく、ドキドキ、なるほど、そうか、なぜ、ふしぎなど>
- **心を動かすためには、子ども達の体験からアプローチをする**。
例えば、めあてから子ども達が持っているものを全部出させる。
「どうして?」理由や根拠も聞く。いろいろ出てきたら「たくさん出たね、すごいね。」と声をかける。

- (4) 公共物や公共施設の利用
- (5) 季節の変化と生活
- (6) 自然や物を使った遊び
- (7) 動植物の飼育・栽培
- (8) 生活や出来事の伝え合い



5 評価の本質と方法

- 評価の目的
子どもの姿の見取りと理解等を通して(子どもの成長の支援、教師の指導法・カリキュラムの改善)
子どもが成長する・学ぶことの意味や楽しさを知る→生涯学習の観点、「もっと勉強したい！」
- 生活科の評価材<姿、発言、ポートフォリオ、製作物等>
- ルーブリックのよさと限界
点数で見取ることができないので、子どもの姿で見取る。**ルーブリックに書いてある姿は限定的であり、その他にもよさはたくさんある。書いていないところを見取ることも大切である。**
- どのように評価すれば目的に近づくか→よさの指摘と共有(どんなところがよいか)、説明と提案

これからの予定



- 8月21日(月) 小3・4年生
研究授業(9/4) 指導案完成
- 8月24日(木) 校内研修(午後)
全体 朝倉教授来校

単元ストーリー及び研究会での授業構想のプレゼン(5分程度)を実施します。そのあとで、朝倉先生から助言をしていただきます。(各グループ全10分) 準備をよろしくお願いします!

- 9月4日(月) 研究授業(小3・4年生)
全体 長野指導主事来校
- 9月7日(木) 中1・2年生
研究授業(9/21) 指導案完成
- 9月21日(木) 研究授業(中1・2年生)
全体 長野指導主事来校
- 9月25日(月) 校内研修・教育研究会に向けて
全体 朝倉教授来校

先達の言葉

幼年時代の思い出から得た
神聖な貴重なものを失くすには、
人間は生きていくこともできない。

ドストエフスキー(ロシアの小説家)

小・中学校9年間の探究的な学習の中で、小学校1・2年生の生活科は基礎となる大切な部分です。しかし、中学校の教職員は生活科の授業をしたことがなく、いまいち実態をつかめていないところがあります。総合的な学習の時間とは違い、内容が決まっているなどの違いもあるので、この号で、ぜひ学んでおいてください!